



第二中だより

No. 575

開校 54周年

生徒数 448名

令和3年1月6日

和光市立第二中学校

〒351-0106 埼玉県和光市広沢1番4号

TEL 048-462-1793

FAX 048-462-1890

<http://2chu.wako-city.ed.jp/>

「1年の計は元旦にあり」

校長 橋本 真

令和3年が始まりました。保護者、地域の皆様には、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。新しい年の始まりにあたり、皆様の益々のご健康とご多幸を願っております。

一年の計は元旦にあり 二中の皆さん、新年明けましておめでとうございます。「一年の計は、元旦にあり」この言葉は、戦国の名将毛利元就から由来するそうです。元就は「何事も始めが肝心だ」とも言ったそうです。一年の計は元旦にあり、一月の計は朔（ついたち）にあり、一日の計は寅の刻（鶏鳴・早朝）にあり、一年の計は勤め（努力）にある。さらに、元就は「一年の計は努力にあり」とも言っています。「千里の道も一歩から」という意味で、最初からぐずぐずしてはだめということだそうです。「はじめに目標や計画を掲げること、そして、その達成に向け、絶ゆまぬ努力を続けることが大切である」ということです。1月という月は、「今学期、今年の決意を固める」決意の月です。さて、二中の皆さんの「一年の計」はいかがでしょう。3年生は、進路を決定し15の春を迎えるための試練の時が待っています。誰もが乗り越えなければならない壁ですが、あと少しです。目標達成を目指し歯を食いしばって頑張ってください。2年生は、4月には3年生となり最上級生となります。二中をつくるのは、まさしく3年生です。この二中を一步も二歩も前進させるのは3年生次第です。大きな学校行事を成功させるのも、部活で活躍することも3年生の力です。また、1年生も4月には、新入生が入ってきて先輩になります。自信を持って進級できることを期待しています。そして、新年度には、3年生を支え、1年生をリードする大事な中堅学年です。その自覚のもと3学期に臨んでください。

新たな1年を思う 元日の朝刊に掲載された国語辞典

の広告に目がとまりました。「時代、絆、レジリエンス」の3つの言葉が並び、「あなたは、この言葉をどう考えますか」という見出しでした。

おそらく、この1年間に最も多く出会う言葉なのだろうと**新たな1年**を想像してみました。

「時代」：今の社会の深刻な状況や予測は、ニュースや新聞で様々に報道されています。**こんな時代**だからこそ現在の状況を適切に理解し、変化に対応できる人になってほしいと思います。これから求められる柔軟で堅実な生き方は、できるだけ世の中をよく見て、今の自分は何をやるべきかを考えて、確実に実行する事だと思います。

「絆」：家族相互の愛着の念、親しい人の間に生じる断ちがたい一体感と記されていました。感染拡大の状況の中、私たちは、不安や喪失感を抱えながらも前を向いて生きていかなければなりません。そのためには、皆さんに是非とも実行してほしいことがあります。「他の人のために何かできないか」ということです。皆さんは、自分が困ったり苦しんでいるとき、助けられたり励まされたりした経験があると思います。皆さん一人一人が、自分から人のために何かができれば、互いに支えあって暮らす喜びを感じることができるはずです。「人のために何かすること」が「自分自身のためになること」を心に刻み、充実した締めくくりと橋渡しができる3学期にしてください。

「レジリエンス」：病気・災害・惨事等の困難な状況から立ち直る能力。回復力。復元力。

新型コロナウイルス感染の影響が広がる中で、皆さんは、友人と気軽に会えない孤独感や日常や学校生活の制限による弊害が生じています。この不条理ともいえる困難に向き合い、再生、復元、立ち直っていこうとする意欲を持って、この1年を乗り切ってほしいと願っています。